

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200635		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	ほのぼの苑 江波气象台入口		
所在地	〒730-0834 広島市中区江波二本松2丁目10-22		
自己評価作成日	平成28年1月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200635-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成28年2月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

お一人お一人の生活暦や思いを大切にして、ご本人様・ご家族様に寄り添った個別介護を職員間で統一して実践しています。生活の中での楽しみのひとつとして、食事があります。職員と一緒にご利用者様にもお手伝いいただきながら、手作りの料理を提供しています。また、ご利用者様に合わせた食事形態も工夫をしています。
ホームは江波山のふもとに位置し、春はさくら・秋はもみじと季節を感じていただきながら生活していただいています。中庭にも季節の花が咲き、小鳥がさえずり室内にいても季節を感じていただくことが出来るようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ほのぼの苑江波气象台入口は江波山の麓の住宅街に地域密着型のグループホームとして開設され、五年目を迎えています。その間、運営会社、管理者、職員全員は一体となって地域との交流の取り組みを重ねられ、地域の方々よりの理解も深まりながら今日に至っております。春夏の地域のお祭り、江波山で行われる被爆者慰霊祭にはホームのご利用者で用意した折り鶴をお供えするお役を頂いています。大正琴やピアノ演奏、カラオケ同好会の発表等地域の方々が進んでボランティアに来訪され、ご利用者の皆さんの笑顔を盛り立て下さっています。散歩コースでの江波山の四季折々の移ろいと、ホーム中庭で職員と共に育てる草花や野菜の生育に自然美を感じながら、職員各々の優しい声掛けで支援が続けられています。

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員で作った理念を毎朝の朝礼で出勤職員全員で唱和し、理念に添った支援が行えるように心がけている。	「私たちは、季節を感じ地域との交流を深めながら、家庭的な雰囲気の中 穏やかで楽しく快適な生活を支援します。」との理念を毎朝引継ぎ時に全員で唱和して、支援の協調を図っている。	理念に沿った支援を充実する為、フロア単位等で、共有して実行可能な、日々の努力目標を作られることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、地域の行事に参加させて頂くとともに、地域の方々にもボランティアにお越しいただき交流をしている。	江波南風遊び、近隣のスーパーの夏祭りに参加し又8月7日に江波山で催される慰霊祭には折り鶴を沢山作って供えている。折り鶴は地域の方が当てにされて喜ばれている。地域の太正琴やカラオケクラブの方が発表の場にされ、時折演奏にいられて入居者の方は楽しみとされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方の質問や相談などに、随時応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとの運営推進会議にて、日々の提供しているサービス、苑の行事などを報告している。また、会議で頂く意見はスタッフ会議で全職員に伝達し、今後のサービス向上に繋げていくようにするつもりである。	運営推進会議は家族代表、町内会代表、地域民生委員、地域包括支援センター等の出席を得て、運営会社の代表、施設統括等が参加して、2か月に1回行われている。定例の苑の現状や行事報告に加えて、会議毎に医師や専門分野の講師による口腔ケア、食事メニュー検討や災害対策等のテーマで講話を頂き好評を得ている。会議録は職員全員に伝達され支援の向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターと2～3ヶ月に1回の割合で情報交換会を行い連携をとっている。	地域包括支援センターとの情報交換は度々行い、包括センター主催のケアマネ会議に出席しているが、書類面や法的な取り扱いについては本社が統一して市との対応を行っている。	近日に地域包括支援センターの紹介で地域子供園との交流を行う計画を持たれ、実行されることが期待されます。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には身体拘束は行っており、自由に行動できるよう支援している。玄関は施錠しているが、希望があれば開錠し散歩なども出来るように努めている。	現状では身体拘束は行っていないが、バス道路に面していることもあり玄関は施錠し、希望者には職員同伴で開錠している。気付き報告書に挙げられたホーム内での事例や他施設での事例等をスタッフ会議で検討して、虐待防止の確認や身体拘束皆無の支援を共有している。	今後も事例検討に加え身体拘束、虐待の防止について定期的に研修が行われることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で職員を対象に研修を行っており、必要に応じて虐待チェックリストを使い、日々の業務内で言動に問題は無い確認する時間を設けている。		

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の伝達報告会にて情報を共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者・計画作成担当者が出席し、十分な説明を行っている。説明後も、ご家族の不安・疑問点を尋ね、理解や納得をしていただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会などで頂くご意見、面会時に頂くご意見やご要望は、出来るだけ早急に日々の運営に反映させている。	運営推進会議でご家族から頂いた「食事の栄養充実」「食事に果物を加える」等のご意見を早速取り入れて日々努めている。外出支援について、今年度は縮景園にグループ分けして出かけ、大変喜ばれたので、今後も計画を立てご家族の協力も得ながら支援に努める意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われるスタッフ会議に本社社長・統括施設長が出席し、意見や提案を今後の運営に役立たせるように努めている。	管理者は職員からの提案を真摯に受け止め、又日々職員に声掛けして意向を受け止め、ストレスを軽減し、働きやすい環境づくりに努めている。職員一人ひとりの立場を理解してもらって働きやすい旨、面談時に職員より述べられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、賞与等に日頃の努力、実績を反映させ、職員の向上心を上昇させるべく整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社にて研修会を設け、必要と思える研修には個別に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センターを中心として、地域のGH事業者交流会にも参加し情報交換・サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で、ご本人の思いをお聴きするようにしている。入居されてからは、特に関わりを密に持ち、その思いを傾聴していくことで安心できる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご本人やご家族の困りごとや身体機能・認知症状をお聞きし、把握した上で必要な支援を考え提供し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム内で出来る支援以外のサービスを必要とされる場合は対応したいと思い、現在検討中である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様と一緒に掃除・洗濯・料理などの作業を行い、ともに生活をしているという意識の中、時には職員が教えられながら作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等にこられた折に現状を報告し、今のご本人の思いをご家族にお伝えして、ご家族とホームの職員が一緒になって支援するよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所へ出かけたり、面会にお越しいただいたりすることで、関係の維持に努めている。また、ボランティアでお越しいただいたりもしている。	近隣地域よりの入居者が殆どで、ご家族の理解を頂きながら、幼馴染の方が面会に来られて喜ばれている。ボランティアで馴染みの方が演奏に来てくださる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ良い関係を保てるように気をつけている。お互いが労わり合ったり助け合ったりされながら、掃除や洗濯物量などをされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了されても、必要に応じて相談や援助に応じられるようにしている。		

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表などから一人ひとりの意向の確認を行った。普段の会話の中から真意を把握するようにしている。また、意思疎通の困難な方にはご家族などから頂いた情報を元に、職員間でカンファレンスなどを行い情報を共有し、ご本人本位の支援ができるようにしている。	職員は担当制で入居者と親しくコミュニケーションを取り、短期目標の項目別に毎日モニタリング表にチェックし、申し送りノートと共に情報を共有して、本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人やご家族の要望や思いを傾聴し、馴染みの生活を考慮し環境を整えている。また、入居前のサービス提供者の方より情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の現状を十分に把握した中で、プランを計画し実施し、お一人お一人に合った生活を送っていただいている。また、状況の変化等記録に残して職員全員で把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必要時には施設長・看護師・介護職員を交えてカンファレンスを行っている。立案時には、ご本人やご家族の意向などをお聞きして、現状に即したプランを作成している。	担当制での職員のモニタリングでの意見を基にしつつ、カンファレンスを行って、本人、ご家族の意向を重視し、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン実施記録用紙を作成して日々の様子や気づきなどを記入するとともに、プラン立案に役立たせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の付き添いにより、美容院・お寺などに行かれるほか、ホームにマッサージの方においでいただいたりして個々の方のニーズや思いに添った対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加させていただいたり、関わりのある方々との面会等もお願いして、穏やかに生活を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族やご本人が希望される医療機関への受診・往診を行っている。看護師による医療連携も行われており、適切な治療が受けられるように支援している。	在宅時のかかりつけ医の方、入居後ホームの協力医に変わられた方等自由に医療機関を選んでいただき、其々のかかりつけ医による往診が月2回の間隔で行われ、夜間や緊急時には近くの医師が担当外でも対応され連携が保たれている。歯科医師による週1回の往診で口腔ケアが適切に行われている。	

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が勤務の時には、夜勤帯での気づきは申し送りて報告し、日勤帯での気づきはその都度報告している。看護師は、個々のかかりつけ医と相談の上、適切な看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された場合は、ホームでの生活・医療等の情報提供を必ず行い、継続できることはお願いしている。また、たびたび面会に行かせていただく中で、ご本人の容態をお聞きしながら早期退院が出来るようにお願いもしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者様の容態を考慮した上で、ご家族様・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。	入居時に重度化についての説明をし、看取り承諾書を取り交わすが、重度な容態になられた時点で再度ご家族、主治医、看護師、職員で話し合いを重ね、以後の方針を決めている。看取りの方針が決められた時点から、看護師が随時スタッフ会議で説明や指示をして職員で共有しながら、看取り介護を行うことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行われるスタッフ会議で、急変時・事故後の対応の仕方や訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	本社指導の下、夜勤勤務者には防火管理者講習の受講を義務付け意識の向上を図るとともに、毎月一回は日・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。	夜勤勤務者には防火管理者講習が義務付けられて、毎月1回日、夜勤帯での避難訓練が実施されている。日勤帯では主に全員参加を頂いての避難訓練を行い、夜間帯では1回に1名の入居者を対象とされ、訓練記録によって各々の方の避難方法や問題点注意点等の情報が共有され検討される。	消防署の参加指導を求められて消防、防災の避難訓練を実施され、近隣との避難連携を深められることが期待されます。又住宅街に立地しているホームとして、高齢者の一時避難場所や備蓄品、炊き出し等緊急時に近隣地域に貢献できる方法の提案もされることが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりの自尊心を大切にさせていただきながら、対応している。排泄時には出入口のドアは開める・排泄の声かけは大きな声で言わない・入浴介助は出来るだけ同性介助を行うなどプライバシーの保護には十分な注意を払いながら対応させていただいている。	職員の食事介助時の丁寧な声かけの光景から、お一人ひとりを大切に介助されている様子が受け止められた。各フロアー共通して入居者の皆さんの明るい表情が見受けられ、個人の尊厳が重視されて、穏やかに支援されている雰囲気を受け取れた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望をお聞きし出来るように、周りに影響されない場所に移動するなどして、出来るだけ自己決定が出来るような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールを決めずに、お一人おひとりの体調や希望に沿った生活の支援をしている。		

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣の時に、衣服は出来るだけご本人と一緒に選んでいる。また、職員が行う時は、季節にあったもの・調和の取れたものなど気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューにご利用者の希望を取り入れつつ、季節の食材を使用し、調理・盛り付け・配膳・片付けを一緒にやっている。	季節の食材を主にしながら、調理専任者が主に調理して食事の提供をしている。運営推進会議内のメニュー検討会議の家族からの意見を反映させたり、バイキング、おやつ作りを行って食生活に変化を持たせている。希望者毎にお寿司やサンドイッチの夕食にお連れし喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事摂取量と水分摂取量を記録し、十分な量が確保できているかどうか確認している。また、一人ひとりの咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態や食事時間など対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。また、毎週1回は訪問歯科の訪問診療を受けられ、口腔内のチェックを行っていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排尿チェック表を使用し排尿パターンを知り、日中のトイレ誘導を行うことでパットの使用数を減らすように努力している。	排泄チェック表でパターンを把握し日中はトイレ誘導に重点をおいて支援している。退院後おむつ使用よりリハビリ、トイレ排泄となられた例も有る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘症の方には水分摂取量に注意をしているとともに、適度な運動や看護師による腹部のマッサージなどを行っている。ご利用者様によってはファイバー飲料など提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様のご希望に沿った曜日や時間での入浴を行い、ゆったりとした時間の中での入浴を実施している。入浴中は手の届かないところを介助させていただいている。入浴中は気持ちよく手足を伸ばされ、ホッとされた表情をされる方が多い。	入浴は希望に沿って応じる体制は整えているが、加齢や認知度が加わって入浴拒否をされる方が多くなった。清潔保持のためにも週2回は入浴して頂くため、入浴誘導の工夫を職員で共有しながら支援し、入浴されると気持ち良い表情をされる現状である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	これまでのご本人の生活習慣を継続した休息時間を取り入れ、就寝時間もご本人が眠たくなられた時にお休みいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から頂くお薬情報を各職員がいつでも確認できるようにしており、副作用等についても看護師より随時伝達があり理解に努めている。また、内服確認を確実に言い状態の変化等についても注意している。		

グループホーム ほのぼの苑 江波気象台入口（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割ややりがいを持っていただけるような関わりを心がけている。ご本人の嗜好品についても希望に沿っていけるように努めている。気候のよい時などは近所への散歩・ドライブなどで気分転換を図っている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけご本人の希望に沿った外出が行えるようにしている。行きたい所を日頃の会話の中から把握しており、ご家族や職員の介助の下出かけられることがある。近所への散歩は常時行っている。	季節や天気を考慮しつつ、日常は江波山の麓の車の少ない道を散歩の道として、少人数毎に分けて散歩支援している。買い物希望者には近隣のスーパーに同行し金銭を持参してもらって買い物を楽しんで頂いている。行きつけの美容院へ行かれる方もある。ホームの中心にある中庭には植木や草花、季節の野菜の苗が植えられ、趣味のある方は手入を楽しまれ、窓越しに眺めて季節を感じられて楽しまれている方もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎月一度はパン屋さんが来られ、個人で購入されたパンの代金を支払ってもらったり、スーパーへ買い物に出かけられた時は支払いなどを職員と一緒にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用は自由に出来るようになっている。また、希望があれば手紙などのやり取りも出来るように支援している。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔をモットーにしている。不快な刺激を避けることが出来るように、光・臭いなど気をつけている。中庭には季節の草花を植え、皆様に観賞していただいている。季節に応じた設えも一緒に作成展示している。	訪問時、玄関で入居者の方が活けられた花々の華やかなお迎えを受けました。廊下の掲示版には皆さんで外出を楽しまれた笑顔のスナップ写真や色とりどりの手作りの飾りが掲示され、入居者の皆さんの居心地の良さを感じ受けました。建物の中心部にある中庭はリビング一杯に明るい採光をもたらし、草花や野菜が生き生きと生育し、入居者の皆さんは季節の移ろいを日常的に肌で感じて過ごされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間と、リビングにソファや椅子を設け他の入居者様との交流が出来る空間を設けている。また、団樂を楽しむことが出来るように個々の席の配置にも考慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は自由に使用していただいている。入居前に使用しておられた家具などを持ってきていただき、小物などの飾りつけも以前と同じようにすることで、馴染みの空間を作り出している。	居室はリビングにドアが向けられ、入居者の多くの方は三々五々自由にリビングに入り入れられて談笑され、職員の支援の目が容易に行き届く配置とされています。室内のベッドとチェストの他は自宅より馴染まれている小物調度を持ち込まれ、手作りの飾りが掲示される等で好みの自宅を演出されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	カレンダーや時計などを置き、日付の確認・時間の確認は各自で行ってもらっている。トイレなど場所の確認も分かりやすく表示している。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム ほのぼの苑 江波气象台入口（さくらユニット）

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
		○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員で作った理念を毎朝の朝礼で出勤職員全員で唱和し、理念に添った支援が行えるように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、地域の行事に参加させて頂くとともに、地域の方々にもボランティアにお越しいただき交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方の質問や相談などに、随時応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとの運営推進会議にて、日々の提供しているサービス、苑の行事などを報告している。また、会議で頂く意見はスタッフ会議で全職員に伝達し、今後のサービス向上に繋げていくようにするつもりでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターと2～3ヶ月に1回の割合で情報交換会を行い連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には身体拘束は行っておらず、自由に行動できるよう支援している。玄関は施錠しているが、希望があれば開錠し散歩なども出来るように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で職員を対象に研修を行っており、必要に応じて虐待チェックリストを使い、日々の業務内で言動に問題はないか確認する時間を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の伝達報告会にて情報を共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者・計画作成担当者が出席し、十分な説明を行っている。説明後も、ご家族の不安・疑問点を尋ね、理解や納得をしていただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会などで頂くご意見、面会時に頂くご意見やご要望は、出来るだけ早急に日々の運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われるスタッフ会議に本社社長・統括施設長が出席し、意見や提案を今後の運営に役立たせるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、賞与等に日頃の努力、実績を反映させ、職員の向上心を上昇させるべく整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社にて研修会を設け、必要と思える研修には個別に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センターを中心として、地域のGH事業者交流会にも参加し情報交換・サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で、ご本人の思いをお聴きするようにしている。入居されてからは、特に関わりを密に持ち、その思いを傾聴していくことで安心できる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご本人やご家族の困りごとや身体機能・認知症状をお聞きし、把握した上で必要な支援を考え提供し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム内で出来る支援以外のサービスを必要とされる場合は対応したいと思い、現在検討中である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様と一緒に掃除・洗濯・料理などの作業を行い、ともに生活をしているという意識の中、時には職員が教えられながら作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等にこられた折に現状を報告し、今のご本人の思いをご家族にお伝えして、ご家族とホームの職員が一緒になって支援するよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	馴染みの場所へ出かけたり、面会にお越しいただいたりすることで、関係の維持に努めている。また、ボランティアでお越しいただいたりもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ良い関係を保てるように気をつけている。お互いが労わり合ったり助け合ったりされながら、掃除や洗濯物量などをされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了されても、必要に応じて相談や援助に応じられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表などから一人ひとりの意向の確認を行ったり、普段の会話の中から真意を把握するようにしている。また、意思疎通の困難な方にはご家族などから頂いた情報を元に、職員間でカンファレンスなどを行い情報を共有し、ご本人本位の支援ができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人やご家族の要望や思いを傾聴し、馴染みの生活を考慮し環境を整えている。また、入居前のサービス提供者の方より情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の現状を十分に把握した中で、プランを計画し実施し、お一人お一人に合った生活を送っていただいている。また、状況の変化等記録に残して職員全員で把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必要時には施設長・看護師・介護職員を交えてカンファレンスを行っている。立案時には、ご本人やご家族の意向などをお聞きして、現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン実施記録用紙を作成して日々の様子や気づきなどを記入するとともに、プラン立案に役立たせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の付き添いにより、美容院・お寺などに行かれるほか、ホームにマッサージの方においでいただいたりして個々の方のニーズや思いに添った対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加させていただいたり、関わりのある方々との面会等もお願いして、穏やかに生活を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族やご本人が希望される医療機関への受診・往診を行っている。看護師による医療連携も行われており、適切な治療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が勤務の時には、夜勤帯での気づきは申し送りで報告し、日勤帯での気づきはその都度報告している。看護師は、個々のかかりつけ医と相談の上、適切な看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、ホームでの生活・医療等の情報提供を必ず行い、継続できることは願っている。また、たびたび面会に行かせていただく中で、ご本人の容態をお聞きしながら早期退院が出来るようにお願いもしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者の容態を考慮した上で、ご家族様・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行われるスタッフ会議で、急変時・事故後の対応の仕方や訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	本社指導の下、夜勤勤務者には防火管理者講習の受講を義務付け意識の向上を図るとともに、毎月一回は日・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりの自尊心を大切にさせていただきながら、対応している。排泄時には出入口のドアは閉める・排泄の声かけは大きな声で言わない・入浴介助は出来るだけ同性介助を行うなどプライバシーの保護には十分な注意を払いながら対応させていただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望をお聞き出来るように、周りに影響されない場所に移動するなどして、出来るだけ自己決定が出来るような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールを決めずに、お一人おひとりの体調や希望に沿った生活の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣の時に、衣服は出来るだけご本人と一緒に選んでいる。また、職員が行う時は、季節にあったもの・調和の取れたものなど気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューにご利用者様の希望を取り入れつつ、季節の食材を使用し、調理・盛り付け・配膳・片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事摂取量と水分摂取量を記録し、十分な量が確保できているかどうか確認している。また、一人ひとりの咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態や食事時間など対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。また、毎週1回は訪問歯科の訪問診療を受けられ、口腔内のチェックを行っていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排尿チェック表を使用し排尿パターンを知り、日中のトイレ誘導を行うことでバットの使用数を減らすように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘症の方には水分摂取量に注意をしているとともに、適度な運動や看護師による腹部のマッサージなどを行っている。ご利用者様によってはファイバー飲料など提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様のご希望に沿った曜日や時間での入浴を行い、ゆったりとした時間の中での入浴を実施している。入浴中は手の届かないところを介助させていただいている。入浴中は気持ちよく手足を伸ばされ、ホッとした表情をされ方が多い。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	これまでのご本人の生活習慣を継続した休息時間を取り入れ、就寝時間もご本人が眠たくなられた時にお休みいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から頂くお薬情報を各職員がいつでも確認できるようにしており、副作用等についても看護師より随時伝達があり理解に努めている。また、内服確認を確実にを行い状態の変化等についても注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割ややりがいを持っていただけるような関わりを心がけている。ご本人の嗜好品についても希望に沿っていけるように努めている。気候のよい時などは近所への散歩・ドライブなどで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけご本人の希望に沿った外出が行えるようにしている。行きたい所を日頃の会話の中から把握しており、ご家族や職員の介助の下出かけられることがある。近所への散歩は常時行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎月一度はパン屋さんが来られ、個人で購入されたパンの代金を支払ってもらったり、スーパーへ買物に出かけられた時は支払いなどを職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用は自由に出来るようになっている。また、希望があれば手紙などのやり取りも出来るように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔をモットーにしている。不快な刺激を避けることが出来るように、光・臭いなど気をつけている。中庭には季節の草花を植え、皆様に観賞していただいている。季節に応じた設えも一緒に作成展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間と、リビングにソファや椅子を設け他の入居者様との交流が出来る空間を設けている。また、団欒を楽しむことが出来るように個々の席の配置にも考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は自由に使用していただいている。入居前に使用しておられた家具などを持ってきていただき、小物などの飾りつけも以前と同じようにすることで、馴染みの空間を作り出している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	カレンダーや時計などを置き、日付の確認・時間の確認は各自で行ってもらっている。トイレなど場所の確認も分かりやすく表示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム ほのぼの苑 江波气象台入口（もみじユニット）

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
		○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

ほのぼの苑

事業所名 江波气象台入り口

作成日 平成28年5月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に沿ったケアを心がけていたが、各ユニットの問題点を掲げ、共通したケアを心がけたい	ユニットごとの実行目標を掲げる	スタッフ会議の中で、問題提起を行い次の会議までに改善できたかどうかを話し合っていく	3か月
2	5	外部との連携がなかなかできていない	外部の方々との関わりを増やす	地域包括支援センターの方々の協力を得て、幼稚園児と触れ合える環境を作る	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。